Gastro-Health Now

認定ＮＰＯ法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
Certified Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction,
Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer (JRF PDT GC)

目　次

◆ 進行食道がん治療の現状と将来展望……1
◆ あとがき・お知らせ……4

印刷　城南印刷工芸(株) 03-3752-3391

発行所　認定NPO法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
〒108-0072
東京都港区白金１丁目17番２号
白金タワーテラス棟 609号室
電 話　03-3448-1077
FAX　03-3448-1078
E-mail : info@gastro-health-now.org
http://www.gastro-health-now.org

2022.12.1
第86号

進行食道がん治療の現状と将来展望

東京大学医学部附属病院
消化器内科
坂口　賀基

はじめに

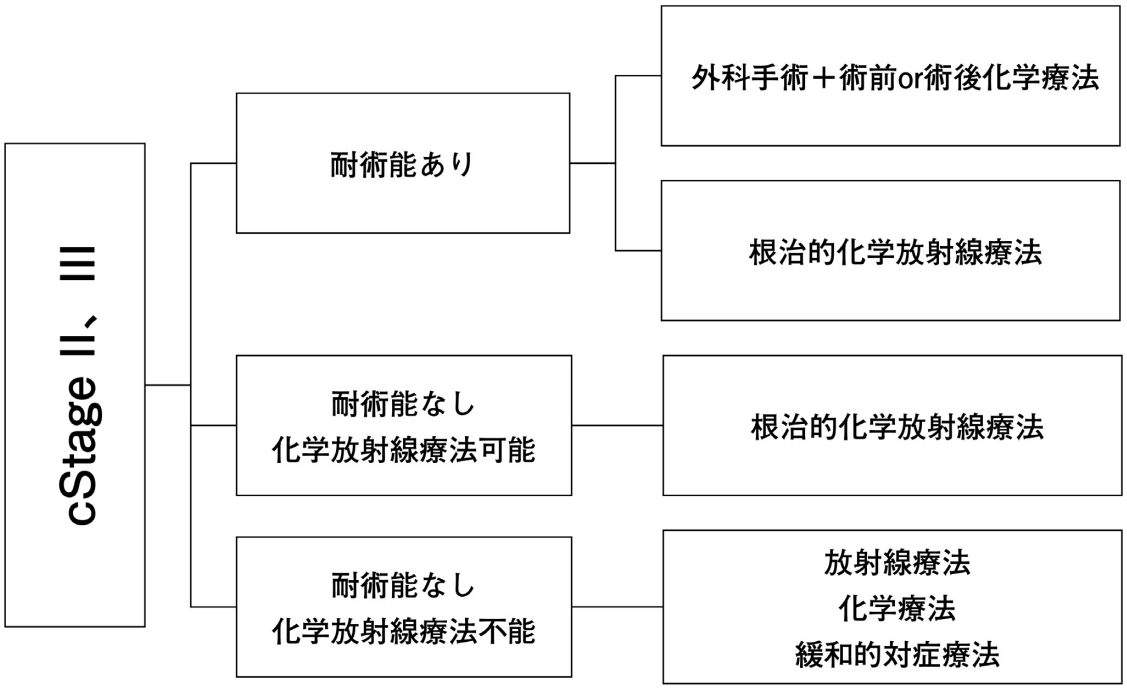
進行食道がんに対する根治治療には、外科手術と化学放射線療法という2つの大きな柱である。治療選択に際して腫瘍による食道通過障害の有無、リンパ節転移の有無、耐術能の有無を含めて食道がんの状態や患者さんの状態を包括的に評価する必要がある。本邦の食道癌診療ガイドラインにおいてcStage II、IIIの進行食道がんでは、耐術能がある場合には外科手術療法を中心とした治療が推奨される[1)]。耐術能がない場合や、cStage IV以上の場合には化学放射線療法が推奨されるが、患者さんの全身状態に応じて化学療法もしくは放射線療法のいずれかしか施行できないこともある。また進行食道がんに対する治療は時に大きく患者さんのQOLを低下させることもあり、患者さん個々の状態や希望に応じて治療法を選択する必要がある。進行食道がんに対する治療法の選択や管理は実に多様化しており、包括的な治療と管理が可能である専門施設で実施すべきである。

外科手術

前述の通り、cStage II、IIIの食道がんでは耐術能がある場合に、長期予後延長効果のエビデンスが最も確立されている外科手術療法が推奨される。食道がんの大半を占める胸部食道がんに対しては胸腹部食道の全摘と頸部・胸部・腹部の3領域リンパ節郭清が一般的であり、胸腔鏡を用いた手術を実施することにより手術の侵襲性を減らせる可能性も報告されている。ただしそれでも侵襲性の大きな治療であるため、術前に耐術能の有無について十分評価する必要がある。また頸部食道がんに対する外科手術ではしばしば喉頭合併切除が必要になり、発声機能の喪失による大幅なQOL低下につながる点にも注意が必要である。また外科切除の術前もしくは術後に化学療法を併用することにより予後改善効果も報告されており、周術期に化学療法を併用することが推奨される。

本治療の利点として、最も有効性に関する科学的エビデンスがある点と、病理組織学的評価により根治性の評価ができるという点が挙げられる。一方で侵襲性が高い治療であるため、必ずしも全ての患者さんで実施できるわけではなく、また長期的なＱＯＬへの影響

図 1　cStage II、III　食道癌治療のアルゴリズム



食道癌診療ガイドライン2017年版[1] より　一部改変

も考慮する必要がある。

化学放射線療法

耐術能がない場合や、cStage IV以上の場合には化学放射線療法が推奨される。この一つの理由として、化学放射線療法の有効性に関するエビデンスがまだ少ないことが挙げられ、外科手術と化学放射線療法の有効性の比較をすべく国内で臨床試験が実施中である。本邦ではシスプラチン＋5-FUを併用した化学療法と、50Gy以上の放射線療法を同時に実施する根治的化学放射線療法が最も一般的である。ただし放射線照射歴のある方では再度放射線治療を実施できない、腎機能低下や著しい体力低下がある場合には化学療法が実施できない、など化学放射線療法の適応についても実施前に十分評価する必要がある。

この治療法の利点として、外科手術と比較すると侵襲性が低く、より多くの患者さんに対して実施できるという点が挙げられる。一方で、現存する化学療法レジメンでは治療効果が外科手術に及ばないとされている。また、化学放射線療法後の遺残や再発に対して救済治療として外科手術が必要になった場合、化学放射線療法を実施していることにより外科手術の周術期合併症が大幅に増えるという欠点も報告されている。本治療を選択する場合には、治療自体の侵襲だけでなく、万一将来外科手術が必要になった時の影響も含めて考慮する必要がある。

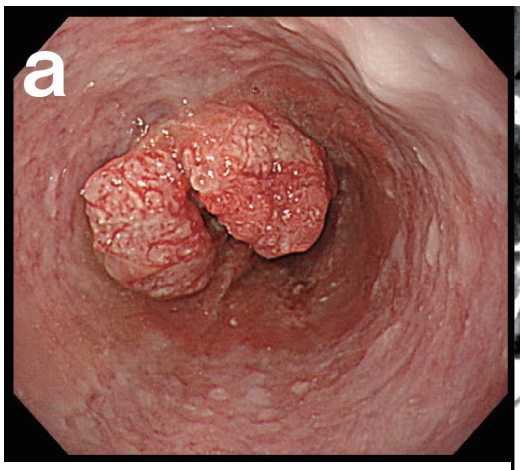
将来展望

進行食道がんは予後不良な疾患であり、根治的外科手術や化学放射線療法を実施した後にも再発や転移のリスクが高い。食道がんを早期発見することが、予後改善にとって最も重要な課題である。そのために、食道がん高リスク患者に対する内視鏡検診をより徹底することが最も有効な手段と考えられる。また、進行食道がんに対する治療という観点では、食道がんに対して有効な化学療法レジメンが他臓器がんと比較して限られている課題が挙げられる。近年多くのがんに対する分子標的薬の開発が急速に進んでいる中で、食道がんに対しても有効な化学療法が新たに開発されることが望まれる。

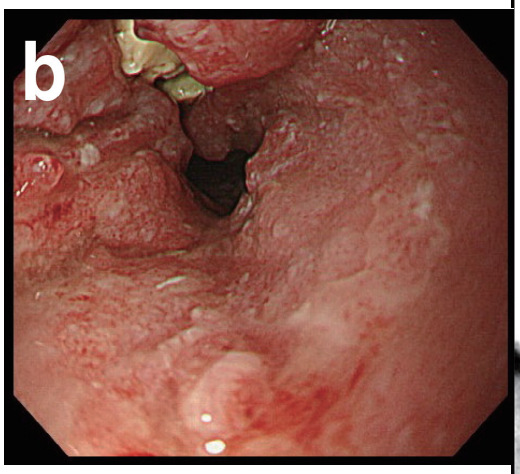
文　献

1）日本食道学会 特定非営利活動法人: 食道癌診療ガイドライン, 金原出版株式会社: 2017

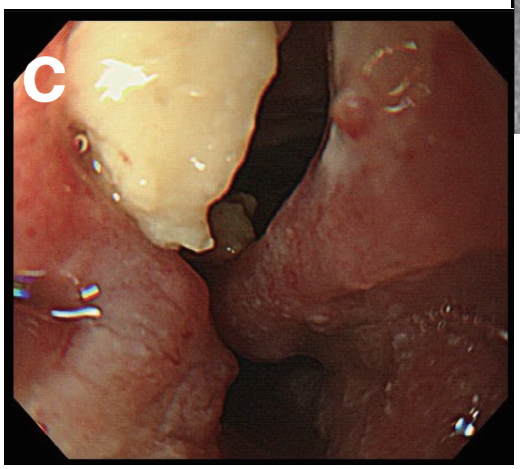
図２　進行食道がんの一例



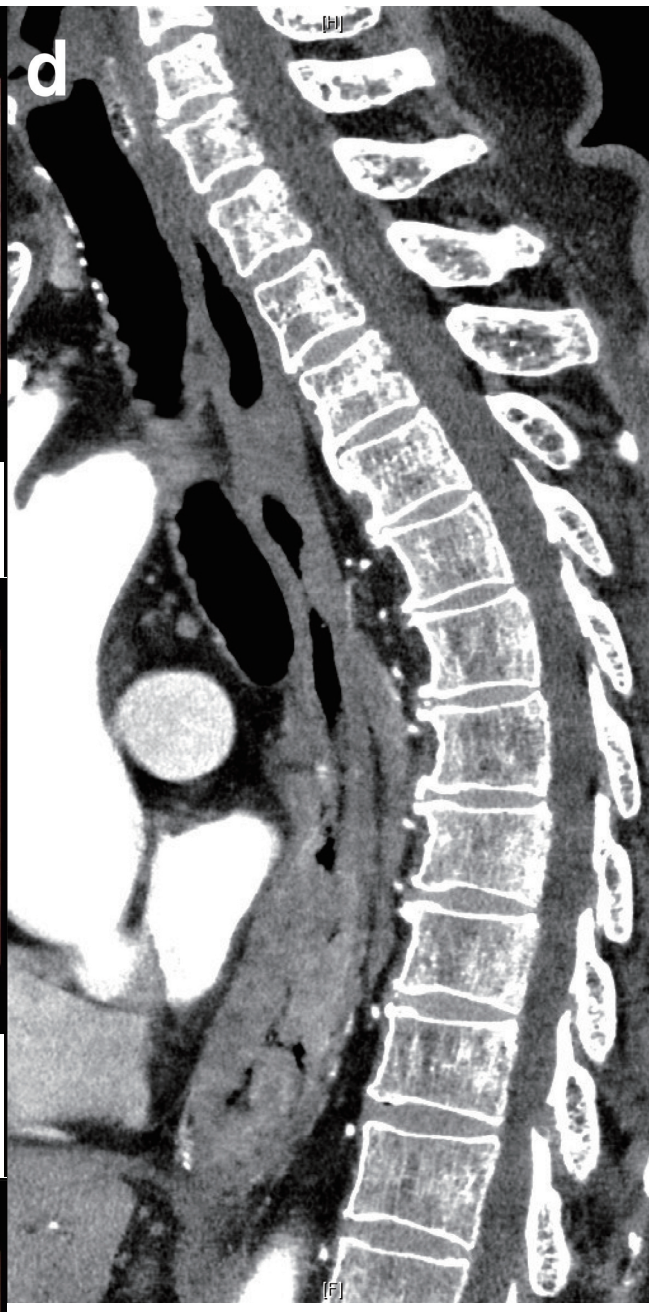
a) 胸部下部食道に進行２型食道がんを認める。



b) 近接して観察すると全周性に発育しており、内腔狭小化を伴う。



c) さらに肛門側は内腔狭小化と深い潰瘍形成の影響で内視鏡挿入が困難である。

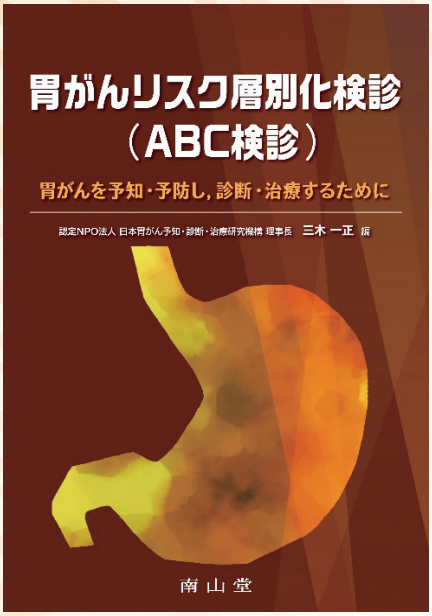


d) 造影 CT 検査では、下部食道に内腔狭小化を伴う食道壁の全周性肥大を認め、周囲リンパ節腫大も認められる。

あとがき　本86号は、東京大学医学部附属病院消化器内科助教　坂口賀基先生の「進行食道がん治療の現状と将来展望」のご寄稿です。GHN全ての購読会員に理解していただきやすい内容で、最新の情報を簡潔にまとめて下さり誠に有難く編集部一同、深謝致しますと共に、坂口先生をはじめ同科の諸先生の今後益々の御発展と御活躍を心より祈念申し上げます。（M）

「胃がんリスク層別化検診（ABC 検診）」

～胃がんを予知・予防し、診断・治療するために～



南山堂
定価：（本体 2,600 円＋税）
編集：三木一正
認定 NPO 法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構理事長

「胃がんリスク検診（ABC 検診）マニュアル（改訂２版）」の改訂３版に位置づけられる書籍。
多くの新たな執筆者を迎え、再編成。
AI の検診領域における活用など。グローバル化に対応した各項目のタイトル、著者、所属名、および要旨の英訳あり。
ラテックスキットは実際に使用可能であり、その有用性を報告。

【主な内容】

・胃がんリスク層別化検診（ABC 検診）の運用の手引き
第１章「胃がんリスク層別化検査と胃がん発生のメカニズム」
第２章「胃がんおよびピロリ菌（感染）の疫学」
第３章「胃がんリスク層別化検診およびピロリ菌除菌による胃がん予防」
第４章「胃がんリスク層別化検査と検診」
第５章「胃がん内視鏡検診診断および人工知能（AI）の活用」
第６章「胃がんリスク層別化検査の実施法」
第７章「食道がん検診対策」（リスク評価）」
第８章「JED,　Q&A」
・胃がんリスク層別化検査・自治体実施状況
・English Summary Table of Contents

【執筆者一覧（執筆順）】　三木一正、兒玉雅明、村上和成、畠山昌則、安川佳美、牛島俊和、伊藤公訓、渡邊能行、津金昌一郎、菊地正悟、山岡吉生、浅香正博、高橋信一、間部克裕、片野田耕太、齋藤翔太、飯田真大、二宮利治、奥田真珠美、福田能啓、垣内俊彦、赤松泰次、池田文恵、島津太一、水野成人、角田　徹、鳥居　明、関　盛仁、永田靖彦、松岡幹雄、水野靖大、木村秀和、関　勝廣、小田島慎也、河合　隆、井口幹崇、濱島ちさと、小林正夫、本田徹郎、乾　正幸、加藤元嗣、権頭健太、山道信毅、加藤元彦、中山敦史、平澤俊明、上山浩也、永原章仁、田中聖人、多田智裕、藤城光弘、矢作直久、辻　陽介、鷲尾真理愛、比企直樹、大隅寛木、望月　暁、髙橋　悠、青山伸郎、伊藤史子、大和田　進、横山　顕、保坂浩子、草野元康、笹島雅彦

事務局より　お知らせ

■ **令和４年度　ご支援のお願い**

令和４年度も引き続き胃がん撲滅に向けて活動して参ります。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。
【寄附および賛助会費】令和４年度（令和４年４月１日～令和５年３月 31 日）
賛助会費（個人）1口 3,000円　　賛助会費（法人）1口 30,000円
当機構は平成25年5月29日に認定NPO法人になり、ご寄附に対し税制上の優遇措置がございます。平成30年度東京都より、当法人の賛助会費には任意性があり対価性がなく寄附金として差し支えないとの判断をいただき、本年度も賛助会費も寄附金同様の税制上の優遇措置を受けられます。賛助会費・寄附金を納入いただいた方には順次証明書類を発行いたします。

■ **お振込み先**

＊三菱ＵＦＪ銀行　目黒駅前支店　普通預金 No. 0008527
特定非営利活動法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長 三木 一正
＊郵便振替　00130-9-429200　日本胃がん予知・診断・治療研究機構

☆お振込の際、ご親族・職場等、複数の会員様でまとめる場合は、お手数ですが払込取扱票の通信欄に全員のお名前をご記入下さい。

■ 転居・所属変更・退会希望等は、お早めにFAX・メールにて事務局までお知らせ下さい。

認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構
電話　03-3448-1077　FAX　03-3448-1078　E-mail：info@gastro-health-now.org